

火葬場の現状と市の考え



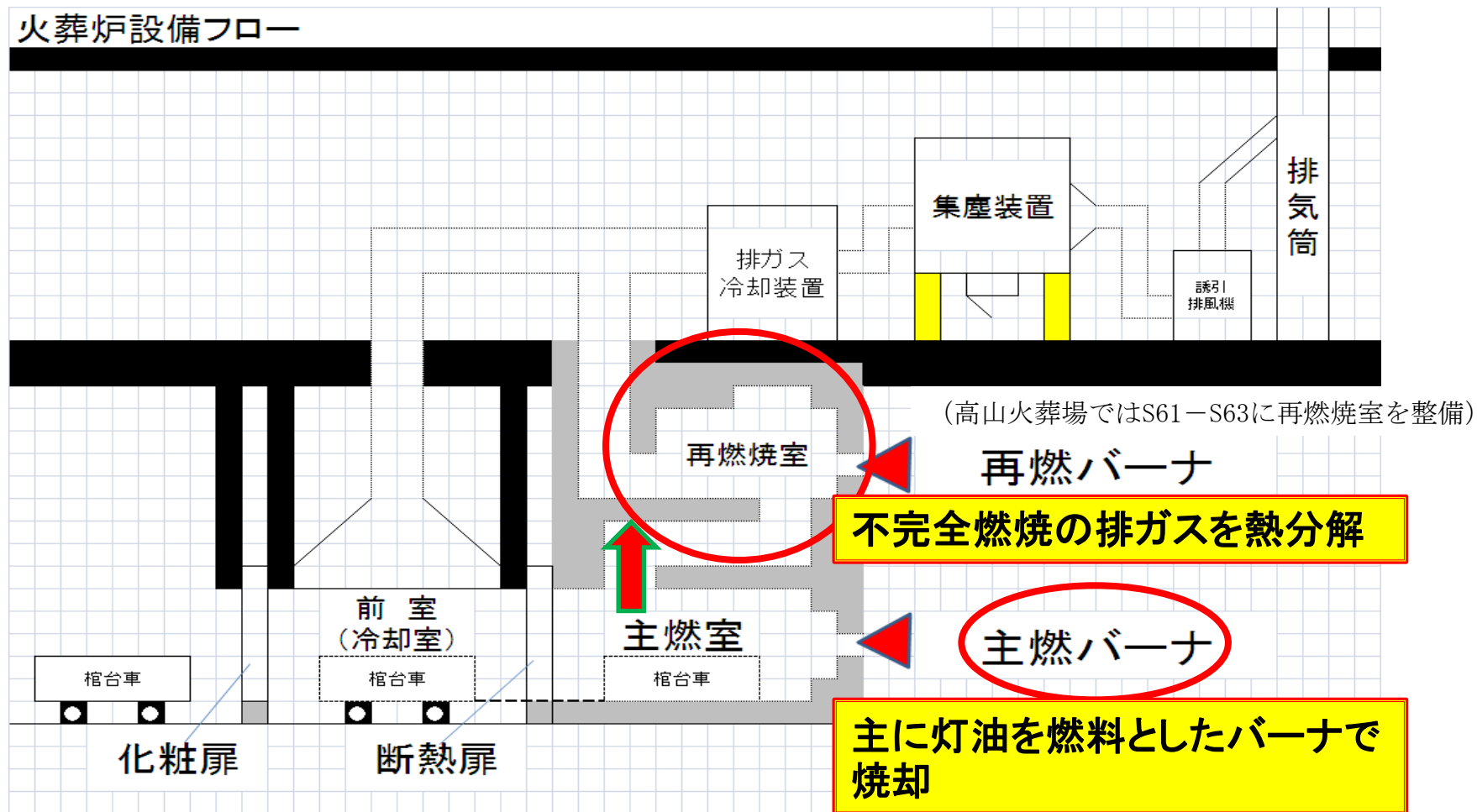


現代の火葬炉設備

高山市役所 市民保健部 市民課

現代の火葬炉設備

火葬炉設備フロー



最新の火葬炉は、コンピュータ制御



H28. 8. 22 多治見市華立やすらぎの杜 視察



H28. 8. 22 関市総合斎苑わかくさ 視察

火葬設備の技術は進歩しています

今の施設は・・・

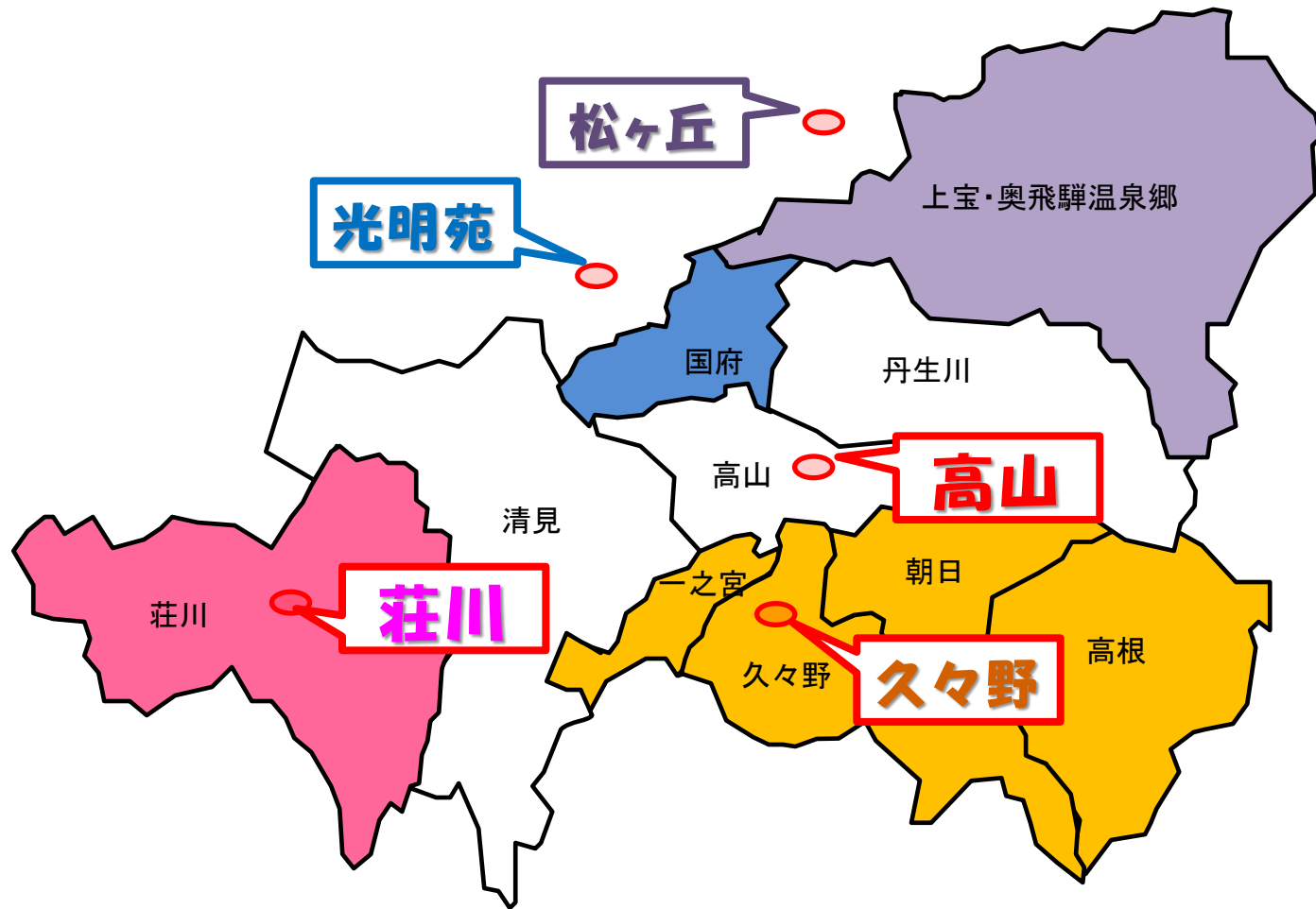
- コンピュータによる燃焼制御
- 熟練した作業員は不要
- けむり、においがほとんど出ない
- 高い煙突は不要



高山市の火葬場の現状

高山市役所 市民保健部 市民課

市民が利用する現在の火葬場の配置



高山市の火葬件数(現状)

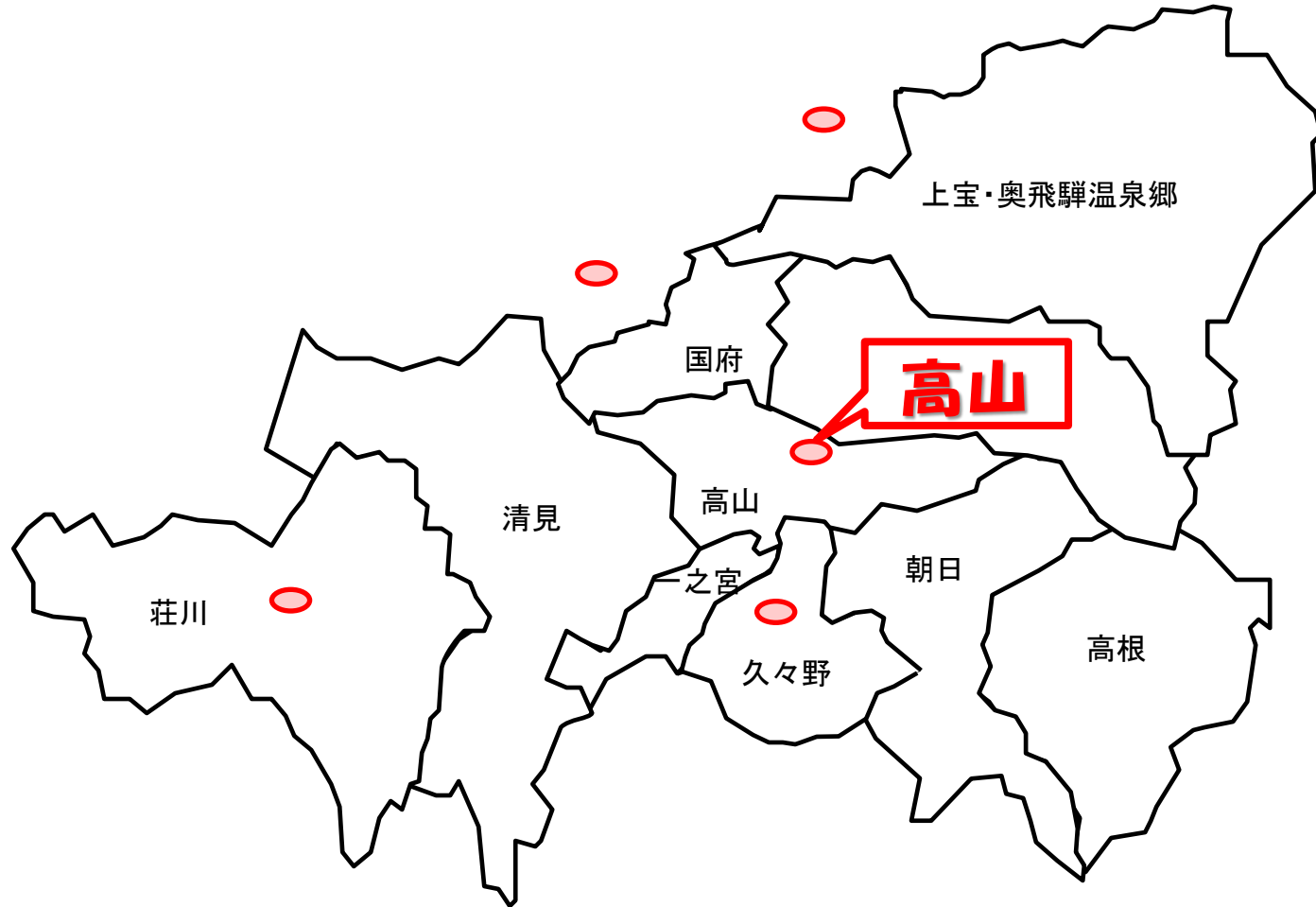
火葬場	平成23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	割合(平均)
高山火葬場	723	735	697	708	728	62.8%
久々野火葬場	289	288	283	291	320	25.7%
荘川火葬場	8	15	16	10	9	1.0%
光明苑 (国府地域)	66	74	78	74	97	6.8%
松ヶ丘公園斎場 (上宝・奥飛騨温泉郷)	36	45	55	32	45	3.7%
合計	1,122	1,157	1,129	1,115	1,199	100%
1日あたり平均	3.08	3.18	3.10	3.06	3.29	3.14

※ 数値には胎児は含まない。別途胎児の火葬が年間10～20件程度ある。

住所区分と利用火葬場(H25-27平均)

住所区分	高山地域	丹生川町	清見町	荘川町	一之宮町	久々野町	朝日町	高根町	国府町	上宝町	奥飛騨温泉郷
高山火葬場	585件 78.7%	48件 80.6%	20件 76.3%	6件 29.8%	3件 10.9%	5件 9.8%	1件 2.5%	1件 8.0%	14件 14.3%	2件 6.6%	3件 15.5%
久々野火葬場	157件 21.1%	11件 18.3%	6件 23.8%	2件 10.5%	27件 89.1%	46件 90.2%	26件 97.5%	8件 92.0%	3件 2.7%	3件 7.5%	1件 5.2%
荘川火葬場				11件 59.6%							
飛騨市光明苑	1件 0.2%	1件 1.1%							81件 82.9%	2件 5.7%	
松ヶ丘斎場										28件 80.2%	15件 79.3%
合計件数	743件 100%	60件 100%	26件 100%	19件 100%	30件 100%	51件 100%	27件 100%	9件 100%	98件 100%	35件 100%	19件 100%

高山市営火葬場



高山市営火葬場(高山市西洞町)



昭和28年建設 火葬炉3基 待合室1棟
市民の死亡、死産による利用は無料

高山市営火葬場

炉前ホール

ここでお別れやお骨上げなどすべて行う



高山市営火葬場



冬季はシートで風除室を

高山市営火葬場



高山市宮久々野火葬場



高山市宮久々野火葬場(高山市久々野町無数河)



平成7年建設 火葬炉2基 待合室2区画
旧南大野4町村で整備 高山市民無料

高山市宮久々野火葬場



炉前ホール



告别室



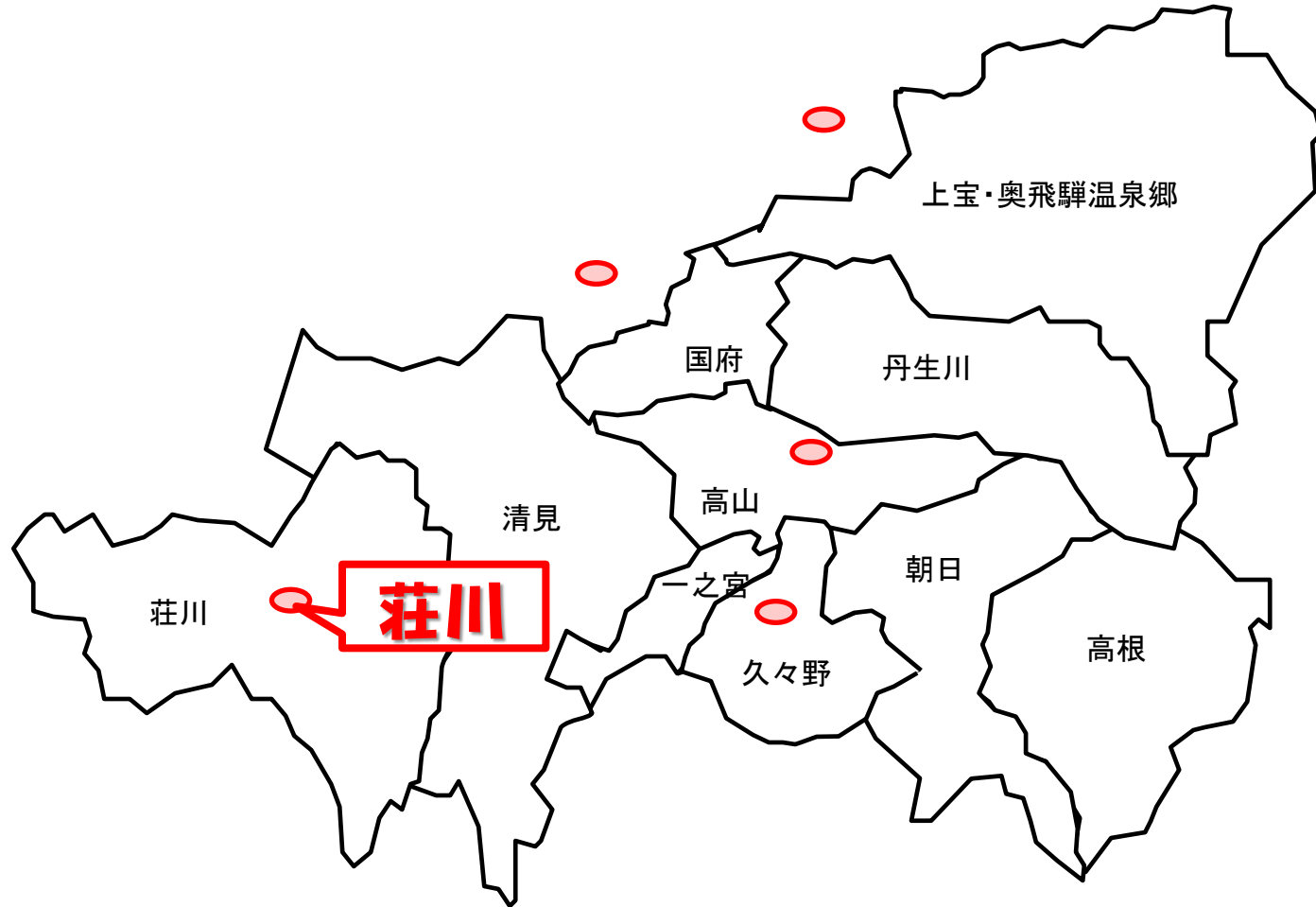
収骨室

高山市宮久々野火葬場

待合室でのおとき
(昼食)が可能



高山市営荘川火葬場



高山市営莊川火葬場(高山市莊川町新湊)



昭和47年建設 火葬炉1基
旧莊川村で整備 高山市民無料

高山市宮荘川火葬場



職員は常駐せず予約時のみ
高山火葬場から出向く



飛驒市 光明苑(飛驒市古川町宮城町)



飛騨市 光明苑(飛騨市古川町宮城町)



平成15年12月供用開始 火葬炉2基 待合室2室

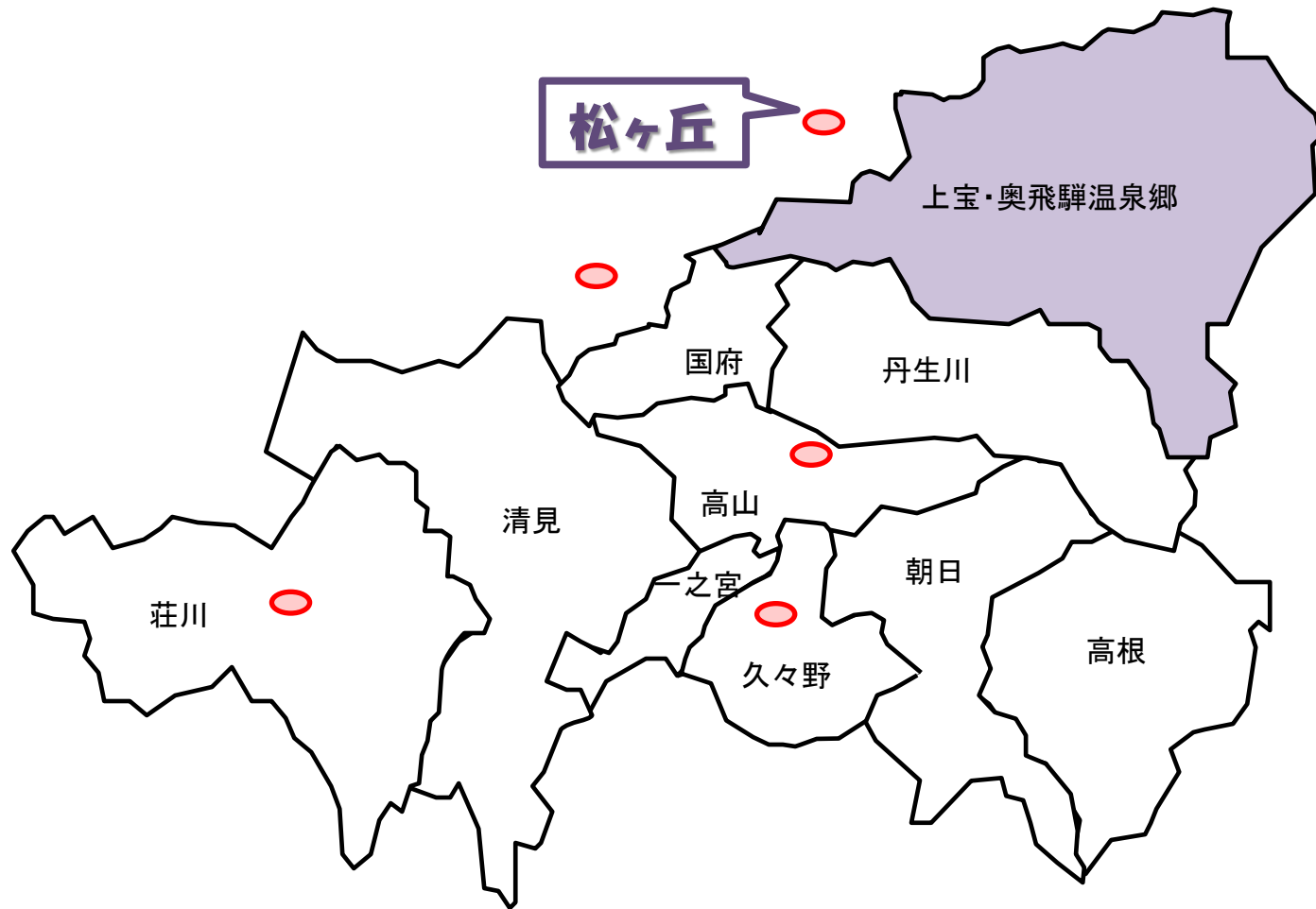
旧南吉城4町村で整備(現在、2市の共有財産) 国府町の住民は無料

飛騨市 光明苑

告別室・収骨室・
待合室を備える



飛驒市 松ヶ丘公園齋場(飛驒市神岡町麻生野)



飛騨市 松ヶ丘公園斎場(飛騨市神岡町麻生野)



昭和45年建設 火葬炉2基 待合室1棟
上宝町・奥飛騨温泉郷の住民は無料(実績で市が負担)

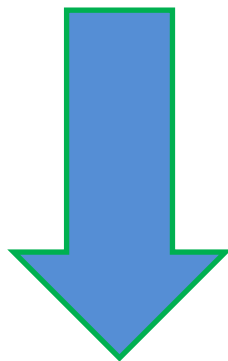


新火葬場の必要性和 既存4施設の継続利用

高山市役所 市民保健部 市民課

施設の老朽化

昭和28年建設
すでに60年が経過



バーナ設備や炉内の耐火材等の定期的な
改修工事を行いながら、施設を維持

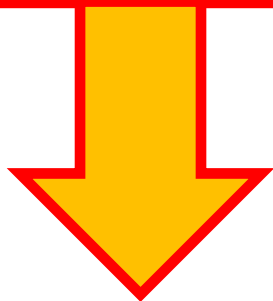
現在の火葬場利用者からの声は

- ・道路が狭い
- ・冬の対応を充実してほしい
- ・施設が古い、新しくしてほしい
- ・もっと厳かな施設を
- ・待合室などの充実

・・・・・・・・etc

昭和28年建設 約60年が経過

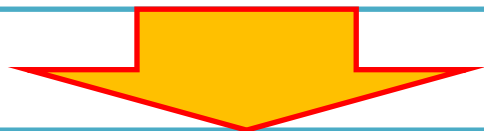
- ・建物の老朽化・耐震性の問題
- ・告別・収骨など火葬スタイルの変化
- ・ご遺族の要望、利便性
- ・今後増えると予想される火葬需要



新火葬場の整備は多くの市民の願い

既存4施設は当面継続して利用

- 各地域の6～9割の住民が地域の施設を利用



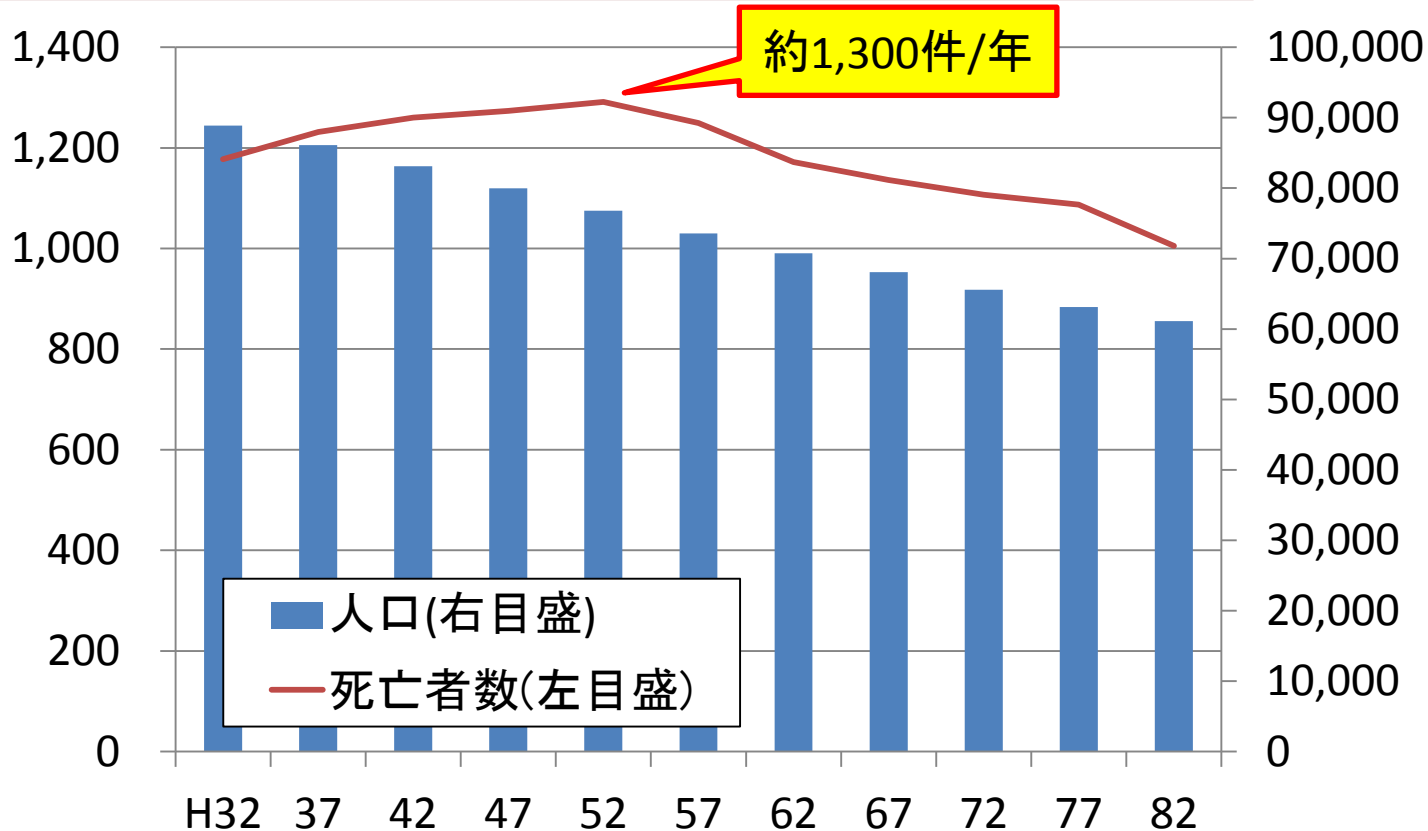
広大な市域、地域性・慣習を考慮

- 高山火葬場の建て替えにあたり、久々野火葬場、荘川火葬場、光明苑、松ヶ丘公園斎場の4施設については、利用を継続する。
- 供用開始後、各施設の利用状況に大きな変化が見られた場合は、当該施設のあり方についてあらためて検討をすすめる。



必要炉数の算出

高山市の将来人口と死亡者数の推計



※ 国立社会保障・人口問題研究所「日本の市区町村別将来推計人口(平成25年3月)」をもとに市で期間を延長してコーホート法により推計。

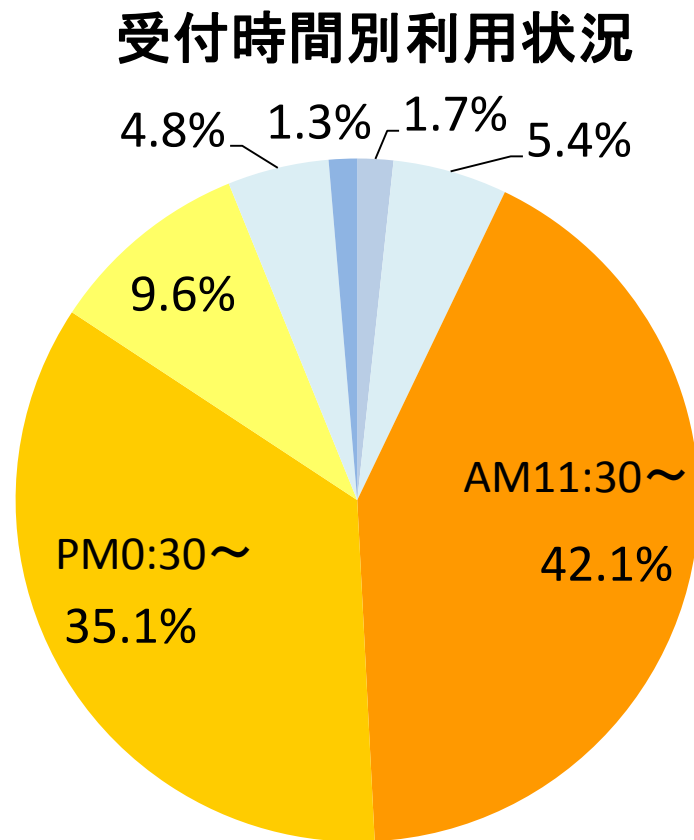
将来人口、死亡者数および必要炉数の推計

年	期末人口 (5年間の 最後の年)	死亡者数(火葬件数)				必要炉数 ④÷C
		5年間の 死亡者数 ①	年間件数 ②= ①÷5	日平均 ③= ②÷A	1日最多 ④= ③×B	
平成27～32年	88,893人	5,887	1,177	3.23	6.18	4.65
32～37年	86,120人	6,159	1,232	3.38	6.46	4.86
37～42年	83,091人	6,300	1,260	3.46	6.61	4.97
42～47年	79,955人	6,367	1,273	3.50	6.68	5.02
47～52年	76,803人	6,458	1,292	3.55	6.78	5.10
52～57年	73,573人	6,247	1,249	3.43	6.56	4.93
57～62年	70,731人	5,859	1,172	3.22	6.15	4.62
62～67年	68,068人	5,680	1,136	3.12	5.96	4.48
67～72年	65,552人	5,534	1,107	3.04	5.81	4.37
72～77年	63,132人	5,436	1,087	2.99	5.71	4.29
77～82年	61,124人	5,026	1,005	2.76	5.27	3.97

※ A: 年間稼働日数364 B: 集中係数1.91 C: 1日1基あたり件数1.33

受付時間別の利用状況(高山・久々野火葬場H25-27)

	利用件数 (3年合計)	割合
AM9時30分～	52	1.7%
AM10時30分～	166	5.4%
AM11時30分～	1,289	42.1%
PM0時30分～	1,075	35.1%
PM1時30分～	294	9.6%
PM2時30分～	147	4.8%
PM3時30分～	41	1.3%



※ 高山火葬場及び久々野火葬場の予約受付状況の合計。数値には胎児を含む。

必要火葬炉数の算定(市全体)

$$\begin{aligned} \text{基本必要炉数} &= \frac{\text{集中日の火葬件数}}{\text{1基1日当たりの平均火葬件数(集中日)}} \\ &= \frac{\text{死亡者数ピーク時における(日平均取扱件数)} \times \text{(火葬集中係数)}}{\text{1基1日当たりの平均火葬件数(集中日)}} \end{aligned}$$

火葬場の建設・維持管理マニュアル-改定版- 特定非営利活動法人 日本環境斎苑協会 より

※災害時および広域対応については、一般的な利用時間外での対応となるため、処理能力としては十分な規模となる。作業員などソフト面での対策が重要。

想定すべき1日最多火葬件数(市全体)

	5件	6件	7件	8件	9件
平成23年度	29日	22日	5日	6日	1日
平成24年度	46日	19日	7日	3日	1日
平成25年度	46日	19日	6日	2日	—
平成26年度	50日	15日	10日	1日	—
平成27年度	41日	22日	10日	6日	—

※ 市民が利用する5施設の合計

年14日程度(年の4%)を除外する

$$\begin{aligned}
 \text{火葬集中係数} &= \text{1日最多火葬件数} \div \text{日平均取扱件数} \\
 &= 6件 \div 3.14件 = \mathbf{1.91}
 \end{aligned}$$

想定すべき1基1日あたりの平均火葬件数(高山火葬場)

	2件	3件	4件	5件	6件
平成23年度	127日	83日	23日	7日	1日
平成24年度	118日	89日	31日	2日	2日
平成25年度	146日	73日	21日	1日	—
平成26年度	135日	72日	19日	12日	—
平成27年度	128日	96日	21日	4日	—

※ 高山火葬場における1日の火葬件数

14日程度(年の4%)を除外する

$$\begin{aligned}
 \text{1基1日あたりの平均火葬件数} &= \text{1日最多火葬件数} / \text{炉数} \\
 &= 4件 / 3基 = \mathbf{1.33}
 \end{aligned}$$

必要火葬炉数の算定(市全体)

$$\text{基本必要炉数} = \frac{\text{死亡者数ピーク時における(日平均取扱件数)} \times (\text{火葬集中係数})}{\text{1基1日当たりの平均火葬件数(集中日)}}$$

$$= \frac{(1,292 \text{件}/364 \text{日}) \times (1.91)}{4 \text{件}/3 \text{基} (\text{高山火葬場})} = \frac{6.78}{1.33}$$

$$= 5.10 \xrightarrow{\text{切り上げ}} \text{必要炉数} \quad \mathbf{6 \text{基}}$$

※ 現在の1日最多件数を7件とみた場合は火葬集中係数は2.23となり、基本必要炉数は5.95となる。

- ・ 荘川火葬場、光明苑、松ヶ丘公園斎場の3施設は混雑時の代替施設としては捉えられない。
- ・ 新火葬場と久々野火葬場の2施設で、市全体の需要を考える。



- ・ 新火葬場では、必要炉数の6基から久々野火葬場の2基を除いた、4基の整備を想定する。

新火葬場 人体炉:4基 多目的炉:1基